



研究テーマ

インターネットで日本と海外をつなぐ英語授業の方法論の研究

“特定の目的のための” 英語の研究 (ビジネス英語, 農学英語, 看護英語)

ラーニング・アナリティクス



荒木 瑞夫

あらき たまお
語学教育センター
英語教育部門

准教授

キーワード

英語教育、e ラーニング、ESP、農学英語、看護英語、ビジネス英語、教育データ、オンライン交流

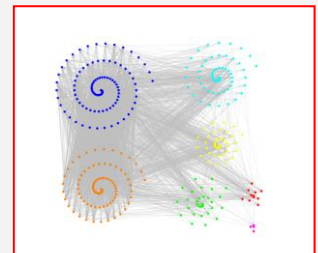
特許情報・
共同研究・
応用分野など共同研究
・2012年4月-2014年3月
(一社)大学英語教育学会(JACET)と(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)の「英語によるビジネスミーティング」共同研究に参加学会活動
・JACET 九州・沖縄支部 ESP研究会副代表ほか資格
・CELTA (2004年10月, プリ
ティッシュ・カウンシル東京に
て)

研 究 概 要

大学での英語教育実践をベースに、e ラーニングや「特定の目的のための英語 (English for Specific Purposes, ESP)」の研究を行っています。また近年は、企業の国際業務を担当する管理職への、全国規模のアンケート・インタビュー調査チームに参加し、ビジネス分野の英語使用についての研究にも携わっています。教育実践と研究を両方行っています。全ての方が外国語を学ぶ必要は全くありませんが、外国語を学ぶことが、生活や人生を明るくするのなら、そのお手伝いをしたいと思っています。

1 インターネットで日本と海外をつなぐ英語授業の方法論の研究

今日のグローバル化は、ヒトやモノの動きだけでなく、インターネット上の、個人レベルも含むぼう大なネットワークに下支えされています。インターネットはバーチャルかつリアルです。その領域で外国語を使うことが、新しい世代の有効かつ必要なスキルともなっています。またネットに接続することで、教室もただの物理的な箱であることをやめ「空間」は無限に広がりますが、教室で海外と交流しようとする、相手側とこちら側の様々な物理的な制約に阻まれ、意外と難しいものです。私は、10年以上、教室で海外数カ国とのオンライン協同学習に学習者と取り組み、その方法論を検討する機会を得ました。海外との協同学習環境や連携環境の構築をプランする際に、その経験を生かすことができると思います。



2 “特定の目的のための” 英語の研究 (ビジネス英語, 農学英語, 看護英語)

語学は時間がかかります。ビジネスで英語を使いたいとき、まずネックはその時間的なコストです。何の目的で使うのか、その目的のためにはどのようなことを学んだ方がよいのかを見つける方法論を検討するのが「特定の目的のための英語」(English for Specific Purposes, ESP)という英語教育の分野です。特に、農学(科学一般)、ビジネス、看護等の分野を研究をしています。個別のニーズがありましたらご相談下さい。

3 ラーニング・アナリティクス

教室では新しいことが試みられます。デジタルツールの開発が進み、学習者の学習過程を把握・分析し、教育改善につなげられる環境が整いつつあります。経験ベースでご相談に乗ることが可能です。



ホームページ

なし

技術相談に応じられる関連分野

- ・海外教育機関等とのインターネットを用いた協同学習環境の構築
- ・企業・医療機関などでの英語学習ニーズと国際化対応に関する助言と提案
- ・教育データの活用方法に関する助言

メッセージ

地方だからこそ、人に知られていない、またはもっと人に知られるべき情報が、眠っているケースが少なくないと思います。そのような場合に、英語は一つの強力なツールとなり得ます。英語が「新しい展開」になりそうな際は、ぜひご相談下さい。